銀十の皿

「ギデオン」

士師記ギデオンに関する注解書、説教集等を目を通す時に、その研究者によってギデオンの印象が違う事がわかります。主の使いに出会う前のギデオンの事ですが、ある方にとっては緊急事態(いつ敵が襲ってくるかわからない状況)でも淡々と仕事をするマイペースで動じないギデオン。又は敵の襲撃を畏れ、隠れてひっそり仕事をする臆病者のギデオン。大方後者の意見の方が多いようですが、今回改めて私自身が感じたギデオンは内なる情熱を秘めながら、しかし現状の問題におびえる一人の青年という印象でした。つまり両者とも間違ってはいないという見解です。

士師記 6 章 13 節でギデオンは主の使いに、このように言います「ああ、主よ。もし【主】が私たちといっしょにおられるなら、なぜこれらのことがみな、私たちに起こったのでしょうか。」この発言は全ての信仰者を代弁したかのような言葉です。私達の主への叫びは、神の御言葉の正しさと信仰生活のギャップの中で起こります。神の聖さと程遠い罪深い自分、平和の無い社会や実生活、神の支配ではなく人間の支配や閉塞感等、ギデオンは先祖が体験した出エジプトの奇跡を持ち出して、主の御使いに「あの驚くべきみわざはみな、どこにありますか」と訴えます。これは魂からくる内なる叫びです。彼は主の使いと出会う中で彼の内なる叫びが引き起こされたのです。

主のギデオンに対する答えは「私があなたと共にいる」「私があなたを遣わす」でした。ここでわかってくることは彼は現状に対する打破を神様に願いながら、自分を通じてそれをしようとする、神様を信じる事が出来なかったという事です。しかし今日私達が学んだことは、自分の可能性を信じるのではなく、

遣わして下さった神様の可能性を信じる事です。私達に求められるのは能力ではあません。私の内に働かれる主の偉大な力を信じるか信じないかです。エペ 1:19 また、神の全能の力の働きによって私たち信じる者に働く神のすぐれた力がどのように偉大なものであるかを、あなたがたが知ることができますように。先週の御言葉から大きな励ましを頂きました。今神様が臨まれる事は、周りの状況や現状や自分自身の〃弱さ〃に揺さぶられることなく、「神が私を通じてなされる偉大な御業を信じます」と告白する、信仰です。弱さも、恥も、葛藤も経験しながら、それでも主に従った中で働かれた赦しや愛、慰めと平安が私達の信仰生活の力です、これが世の〃証〃となって世の人々の希望の光となるのです。共に主を見上げて前進してまいりましょう。